

## ～小来川地区内の公共施設のあり方について検討しています～

小来川地区内の公共施設のこれからを考える検討専門部会も過去4回の会議を経て、次回5回目の会議を持って、取りまとめの作業に入ることになります。各会議におけるグループワークの内容や意見交換の内容について、このニュースレターや小来川地区センターに設置の検討経過の資料などをご覧いただき、地区の皆さんのご意見をお寄せください！

### ☆4回目専門部会で公共サービス機能の集約方法について、様々な意見が出されました☆(一部ご紹介します。)

- ✓ 学校のなかで、使えるスペースは使って良いと思うのだが、ここに示されている全ての機能を学校に入れるというと、現状の空いているスペースだとキャパが足りないのではないかと。だから、学校の建物に全部をまとめるのではなく、近隣のふれあいの郷や、休耕地等何も使っていない場所もあるので、学校の周辺に、分散している既存の公共施設をまとめるような考えでもいいのではないかと。
- ✓ 保育機能、児童クラブ機能、デイサービス機能等は現在の学校の教室の使い方を工夫すれば、機能を入れることは可能ではないか。逆にどんな機能を入れるかという所より、現在の学校の給食室をフル活用してほしい。給食室を使って、保育園やデイサービスの方にも給食を提供してもらおうと言う形で、調理のスペースとして、学校給食だけではなく、色々な用途に提供できるものとしてもらいたい。「小来川食堂」みたいな、児童だけではなく、みんなが活用できるようになると、そこでお金も生まれるのではないかと。そのお金は少しでも小来川の地域の資金になるのではないかと。子供と大人が交流する、小来川の人達が交流する場になるし。小来川の人達が子供たちを守っていくということにもなるのではないかと。交流がないから、この人は誰なのかということもあって、交流が生まれ、小来川の人達が見ていてくれると思ったら、事件事故の不安がなくなるのではないかと。
- ✓ 学校に色々な施設が入るという事は、子供達にとっては凄く良いことだと思う。ただ、子供達の安全面という事が言われている通り、学校はここまでで、ここからは他の施設というような区切りというのは当然必要だと思うし、そういった改修というのは当然ないと、学校としては、運営は難しい。色々な機能が集まって、人が来るというのは学校にとっては有難いことだけれども、それをどう整えるのかという事が一番の問題。
- ✓ パターン1とパターン2をあまりここで話合っても、細かい法的規制とかもわからないし、キャパの問題もある。全体の意見としては、なるべく学校の場所に色々なものが集約出来て、用事を済ませながら、子供、孫が遊んでいるのを見ながら帰ることもできるという意味では、みなさんそういう意見が多いのではないかと。
- ✓ 今まで出てきた意見で、外から来た人をもてなす部分とか、地域に仕事を作るとかという、そういった面はどうしても、公共施設というところだけなので、ただ、考え方としては、余った施設を使えるということもあると思うので、もう少しそういうものが見えてきた時点で、そういった意見も地域から吸い上げてもらいたい。
- ✓ 子どものことを一番に考えて、学校に集約するというをやってほしい。何でもいれて、一緒にしてしまっ、建物建てられません、お金もかかる、子供達にしわ寄せが行くようなことはやめて欲しい。地域内外の人が出入りする施設でも良いとは思いますが、学校の機能を、子供達のことを第一に考えて、後は小来川の人達のことという事を考えてもらわないと。安全面、セキュリティのこともあると思うので、そこは配慮いただきたい。

### 《西尾アドバイザーから・・・》

学校の複合化の事例は全国的にはいくつかあるが、都会の事例が多い。都会だと、どんな人が入ってくるかわからないので、子供達とは接しないように物理的にもきっちり分けているという例が多いが、小来川の人達は、みんな顔が分かっているという話があって、むしろ外の人が入ってくる施設ではなくて、地元の人達が入れて、交流する施設という風に学校の施設を位置付けていくと、むしろその中では安心して子供たちも大人も交流できるという、そういう場所に出来る可能性があると思いました。

それが小来川の強みである、みんな人が良くて、お互いよく知っているということを生かしていけることだし、特に食堂をキーにして色々な人が交流しやすいような仕組みにしていくというのは、凄く良いアイデアだと思います。

一方、小来川の外の人をどうやって呼び込むのかとか、外の人との交流の場も今までのグループワークの中でも凄く重要な視点として出ていたと思います。外の人との交流が深まっていけば、仕事には直結しないかもしれませんが、小来川地区の活性化に凄く結びつく話だと思います。学校の施設だけで考えるのではなくて、近隣の施設も連携しながら考えていくという中では、ふれあいの郷なんかをうまく活用しながら、外からの交流、外との交流というところを、そのふれあいの郷を使ってうまく実現していくということで、地区全体で考えていくと、かなり可能性が広がっていくのではないかと感じました。

この資料に関するお問い合わせ先

日光市財務部資産経営課  
公共施設マネジメント係  
〒321-1292 日光市今市本町1番地 本庁舎3階  
TEL: 0288-21-5132 mail: [shisan-keiei@city.nikko.lg.jp](mailto:shisan-keiei@city.nikko.lg.jp)

## ■第3回専門部会



平成31年4月22日（月）午後6時から小来川林業研修センターで、第3回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会を開催しました。

第3回目の部会は、第2回目に引き続き、グループワークという形で、「将来の小来川のまちに向けた公共施設のあり方」をテーマに3つのグループに分かれて、意見交換・検討を行いました。

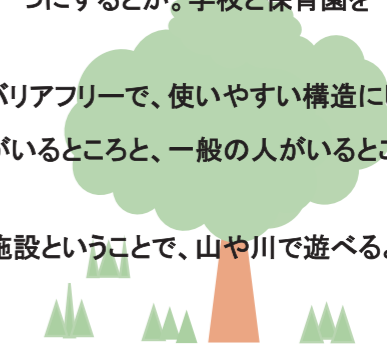
2回目専門部会のグループワークで検討した、「10年後20年後小来川をもっと良くするために」考えた、将来のまちの形。それを実現するために公共施設をどう考えていったら良いかのアイデアを出しました。



【第3回専門部会の様子】

### Aグループ

- 学校の近くに集約
- 人の集まる施設
- 既存施設については、診療所、小来川支所、デイサービスセンターを一つにするとか。学校と保育園を一つにするとか。一体化して、まとめた方が良いでしょう。
- 条件として、多くの人が集まりやすい場所、行きやすい、施設自体はバリアフリーで、使いやすい構造にしてほしい。
- 既存施設の一体化に向けては、学校などと一緒になる場合は、子供がいるところと、一般の人がいるところの機能のすみ分け、構造的な工夫も必要ではないかと。
- 小来川の良い所(自然)を生かすということで、外から人が来るような施設ということで、山や川で遊べるような、または、そういう施設を備えた公園そういうものを作ってはどうか。
- 他施設の有効活用
- 外から来た方が泊まれるような施設とか、老人が年をとったら住めるような家とかを整備する。道の駅とか、山の駅、直売所等の施設。
- 直売所については、小来川地区内の住民のためのお店を兼ねたもの。(制度上の話も解決しなければならない)公共コンビニ等。
- 資金については、クラウドファンディングを利用できないか。重要な道路の整備や、交通機関の整備も必要。
- 老人対策として独居老人とか老夫婦が住めるような集合住宅、外からも地域内の高齢者も入れるような老人ホームを作ってはどうか。





## Bグループ

### ●施設整備する時の条件

#### ●現在の施設の一体化

#### ●外部・内部の力の商業施設

#### ●高齢者対策

- 最優先の事項を考えると、複合施設・・・それだけでは、この小来川がただ高齢化が進んで、子供がいなくなって、過疎化が進んでいくという未来しか想像できない。
- それを打開する策として、人を集めるということで、「温泉を掘る」・・・人が集まれる場所、他の地域からも人が集まる場所をつくっていくことが小来川の発展していく未来に繋がる。
- そういった場所をつくって、そこでおじいちゃん、おばあちゃんの力を借りて、シルバー人材センターのようなものを利用して、小来川の中で地域の人々が活性化していけるような場所が必要。

#### ●外部の方の施設

- 福寿荘(民間施設)を再開してもらおうとか、道の駅とかなども出来ないか等の話が出た。運動公園等も道の駅等と一緒に、人が集まれる場所を作ることが必要と考えた。

## Cグループ

### ●人を集める

### ●道路の整備

### ●交通機関

- サイクリングコース、サバイバルゲーム、ボルダリング、キャンプ場等々の人が集まれる施設を作った方が良い。
- 公共施設については、基本的に複合化。面積だけで言えば、小中学校一つで、支所機能や診療所等の諸々の施設が入ってもスペース的に余裕があるのではないか。
- 学校と他の機能を区切って分けて行かなければという意見もあったが高齢者と子供が触れ合えるような作り方で利用していけるのが良いのではないか。
- 複合施設ということで考えれば、お店的なものとか、銀行・郵便局等の機関を含めて一つの施設のなかで、やっていけるのが良い。
- 施設の有効活用ということで、皆が集える場所、道の駅とか、山の駅とか等の施設をつくるというか、既存の施設を利用していかなければならないのではないか。
- 学校に集約することを前提に、他の施設については、民間に貸し出して、利用していくということで、地元の活動するための資金も確保しなければならないという中で、行政に頼ってもなかなか出来ないところだと思うので、民間の力というところを考える。

### 《西尾アドバイザーから・・・》

- 投票で一番票を集めたのが「みんなが集える場所」、別グループの「人が集まれる施設」と合わせみんなが集まれる場所が大事だということをおみなさん大事にされている。
- 一つは中に住んでいる人の為、小来川地区の皆さんが住みやすいところという観点になった時に、ここが一番重要なキーワードとなって、「人が集まれる、人が集える」というところなのかなと感じました。
- もう一方、中の人だけではなく、外から人を呼び込まなくてはいけないという問題意識が出ているのかなと思いました。次に多かったのが、「外部と内部の方のための商業施設」というところに票が集まっています。
- 道の駅をつくるか、コンビニ、クラウドファンディング、トレイルランニング等、色々なキーワードが出ていますが、外から人を呼び込んで、中の人との共用、商業のところも大事だという、外と中の両方の視点が見えます。



皆さん共通して出されていて素晴らしいなと思ったのは、将来人口が減って行って、施設も今のまま維持していけないとなると、施設を集約化する、複合化する、これはやっていかざるを得ないということを、指摘されている。非常にそれは重要な観点で素晴らしい。ただ、単に複合化するだけではだめで、プラスαが大事だと言うことで、人が集まる場所とか、外からも人が呼べるというような観点を色々に入れて行くということが大事であるという指摘だったのかと思います。

## ■第4回専門部会



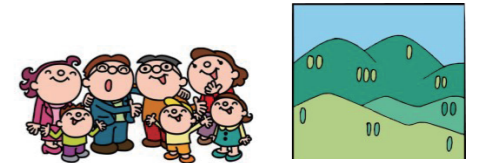
令和元年5月30日(木)午後6時から小来川林業研修センターで、第4回「小来川地区内公共施設適正化検討専門部会」を開催しました。

第4回目の専門部会は >> 過去3回の会議の検討内容を踏まえた小来川地区の将来(未来)のまちづくりの展開 << について、特に2回目、3回目のグループワークの作業を通して、見えてきた方向性という視点で、次回会議における部会としてのまとめを念頭においた、意見交換を行いました。

・・・過去3回の会議で出された意見等をまとめると・・・

### I. ハコモノ(ハード面)の考え方の方向性

⇒公共施設機能は集約する(施設の集約化・複合化)



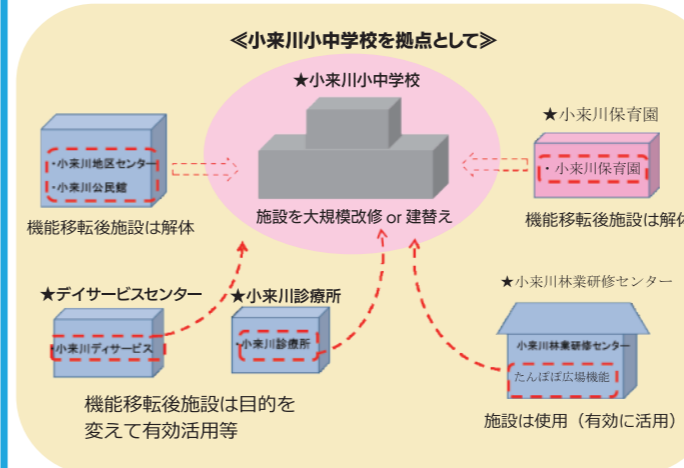
### 学校機能について

過去2回のグループワークを通じて、ハコモノ(ハード面)の考え方の方向性として、機能を集約、複合化していくことが必要という意見が見られました。その集約先の拠点となるのは「学校」という意見が多かったことを受け、学校に集約するにしても、建物の物理的なキャパの問題が生じることから、学校機能自体の存続について、まず部会員の皆さまに意見を求めました。

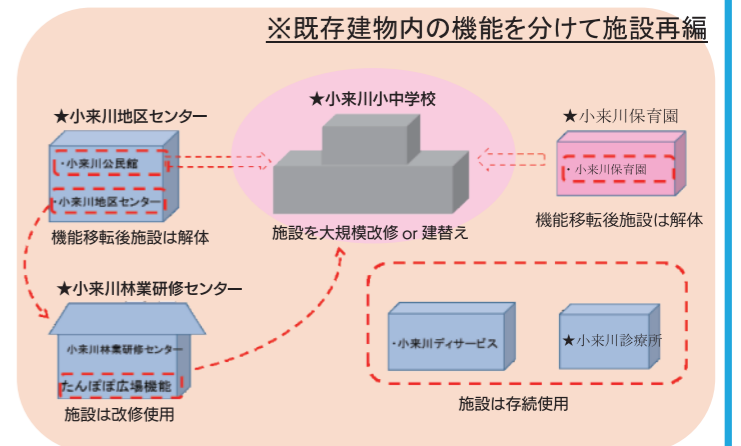
結果、この専門部会においては、「機能として学校がある前提で話を進めていくべき」「学校の存続については、この部会の中で結論づけるべきではない」という意見が多くありました。このことから、学校機能は存続することを前提に機能の集約の仕方について、議論を進めました。

### 公共施設の集約化(施設再編)のイメージ(2パターン)

#### パターン1 全ての公共サービス機能を1つに集約化



#### パターン2 公共サービス機能を複数施設拠点で集約化



### II. ソフト面の対応で実現可能なこと

⇒ハード面の整備は財政的なハードルがある。

ハード面では困難なことをソフト面の対応で解決できることが何か。

上記パターン図はどちらかのパターンにするという事ではありません。この2パターンを基に議論を進めました。

また、次頁の第4回目会議でのご意見や要望等も踏まえ、学校を拠点にした施設機能の集約についての捉え方について、イメージを軌道修正しながら、次回第5回会議で施設集約の全体的な方向性のイメージを整理共有することとしました。